

バドミントン応援プログラム 2019 実施要項

TOKYO2020 応援プログラム参画企画

(1) 目的：

2020年東京オリンピック・パラリンピックの機運醸成と、大会後のレガシー創出に向けて、バドミントン版応援プログラムを実施します。バドミントンを愛してやまない人、バドミントンに関心がある人、これまでバドミントンに関心のなかった人も参加できるバドミントン応援プログラムの実施を通して、皆で繋がり、より豊かなバドミントン文化を創出しましょう。

(2) 主催：公益財団法人日本バドミントン協会

(3) 主管：47都道府県バドミントン協会

(4) 期間：通年

(5) 会場：

中央会場、地域会場で行う。

中央会場：ファン感謝祭会場

地域会場：①第1種大会である23大会の会場（国体、S/Jリーグを除く）

②各都道府県で開催される大会やイベント会場

③バドミントン巡回講習会（バドミントン・キャラバン2019）

(6) 内容：

応援プログラムでは、実際に各会場で行うプログラムをアクションと呼びます。本会と各都道府県バドミントン協会・各バドミントン連盟が協力して、中央会場・地域会場において、次のアクション（共通プログラムあるいは会場ごとの独自プログラム）を行います。

1) 共通プログラム

A) シャトル・アート・プログラム B) ラリーラリー・プログラム

2) 独自プログラム

C) 次の8つのテーマのいずれかに沿った独自プログラム（イベントや事業）

1 スポーツ・健康 2 街づくり 3 持続可能性

4 文化 5 教育 6 経済・テクノロジー

7 復興 8 オールジャパン・世界への発信

(7) 広報・公開：

- ・本会応援プログラム専用の HP で、プログラムの PR、その記録を公開します。

<https://go-badminton.jp>

各団体での HP でもバドミントン応援プログラム専用の HP へのリンクを貼って下さい。

- ・ TOKYO2020組織委員会の応援プログラムHPで公開します。

<https://participation.tokyo2020.jp/>

- ・その他、必要に応じて各メディアで活動の様子や記録を公開します。

(8) 申請方法：

専用の HP から申請します。次の手順で申請してください。

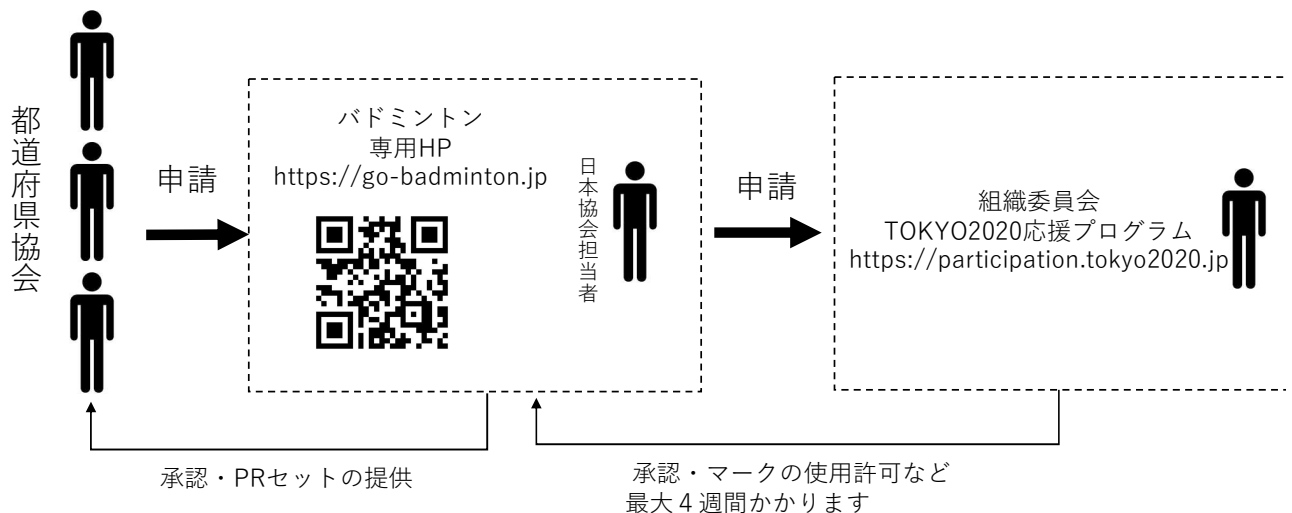
- ①次の本会専用 HP にアクセスする。

<https://go-badminton.jp>

- ②「アクションの申請」をクリックします

- ③必要事項を入力して、申請をクリックすれば終了です。

申請時に必要な情報は、別紙「実施計画書」、「収支計画書」の太枠内の情報です。事前に協議し、情報を確定しておいてください。



注意してほしいこと：

- ・申請に関する書類などの入力・提出は専用 HP で行なう事になります。各団体からの申請を受けて、本会が TOKYO2020 組織委員会へ申請します。申請から承認まで最大4週間かかりますので、余裕を持って申請してください
- ・応援プログラムは、アクションの内容が異なれば別のアクション（イベント）として実施します。特に独自プログラムで実施する場合には、各団体で考えたプログラムごとに個別に申請していただくことになります。

(9) 実施報告：

各アクション（イベント）が終了した段階で、専用の HP から実施報告を行ってください。報告の際に必要な内容は、別紙の「実施報告書」の太枠の内容です。その際に、開催時の様子が分かるような記録画像（横断幕やのぼりを背景にしたもの）を1点以上 HP から提出して下さい。この記録画像は、HP などに掲載します。

(10) バドミントン応援プログラム収支計画書、提供する PR セットについて

1) 収支計画書について

① 「シャトル・アート」、「ラリーラリー」を実施する場合：

収支計画書は本会が統一したものを作成します。各団体で作成する必要はありません。

② 独自プログラムを実施する場合

各団体で収支計画書を作成することになります。謝金、日当、消耗品など支出予定する項目を検討して下さい。各項目にあてる標準的な金額は設定しませんので、各団体の実情に応じて経費を算出して収支計画書に記載して下さい。

2) 本会が各団体に提供する PR セットについて

PR セットの内容は次のようになります。

①バドミントン応援プログラム用のぼり旗（のぼり4枚：ポール・台も含む）

②バドミントン応援プログラム用横断幕（2枚）

③共通プログラム（シャトル・アート、ラリーラリー）用リーフレット（1,000枚）

各都道府県に上記の PR セットを1セット提供します。このセットは、3年間使用しますので、各団体で大切に保管し、使用して下さい。

(11) 実施助成金

実施報告を事務局が確認後、実施した各都道府県協会に所定の助成金を支給いたします。

(12) 問合せ先：

不明な点などは、バドミントン応援プログラムの専用メール（ouen@badminton.or.jp）宛にお問い合わせ下さい。

A シャトル・アート・プログラム

シャトルほかバドミントンの使用済み用品を素材に、ユニークなアート作品を創りましょう。芸術活動を通じてオリンピック・ムーブメントに参加し、日本の「もったいない」の美意識を素敵なカタチに変え、バドミントン界から世界へ向けて発信します。

①創作について

新品ではなく、あくまで使用済み用品（シャトル、シャトルの筒、壊れたラケット、ストリングスなど）を全体あるいは部分に用い、個人あるいはグループでアート作品や実用品など自由に創作して下さい。

②展示について

作品は、専用 HP に公開し、その後、各地の大会会場などでの出品展示にご協力をお願いする場合がございます。

③公開登録について

作品の現物ないし写真（データでも構いません）を、下記の《指定会場》に持参して下さい。会場内に常駐するシャトル・アート・コーディネーターが、持参作品の写真撮影を行うか、写真、データをお預かりするなどして専用 HP にアップ（＝公開）します。

④指定会場

次の地方会場または中央会場までお越し下さい。会場詳細については、専用 HP でご確認下さい。

- 地方会場 ▶ 第1種大会が開催される全国 23 会場（但し、国体、S/J リーグを除く）
 - ▶ 各都道府県で開催される大会やイベント会場
- 中央会場 ▶ ファン感謝祭（品川総合体育館）

⑤専用 HP <https://www.go-badminton.jp>

B ラリーラリー・プログラム



バドミントンは、誰とでもシャトルの打ち合い、ラリーができ、長く打ち続けることで楽しさが生まれます。長くラリーを続けることで、相手との協力や理解や自己の記録更新への挑戦が生まれます。そこには、オリンピックに参加する人たちが持ち続けようとする友情、連携、フェアプレーの精神と同じものがあります。

そこで、次の2つのことにチャレ

ンジし、参加した人誰もがオリンピック精神の持ち主になることを目指しましょう。

(1) シャトルを打ち続ける回数の自己ベストをどこまで更新できるか

(2) みんなで打ち合ったシャトルの飛んだ距離を足し合わせて、シャトルを地球1周させることができるか例えば、6mのラリーラリーならば、シャトルを地球1周されるために打ち合う回数は、670万回。47都道府県で分担すると、各14万2000回。各ペアが100回打ち合うとすると、1420ペアが参加すれば達成できる！

| | A、Bのどちらかを選び、2人の距離を決める。 シャトルは1個だけ使う。 | |
|---|--|---|
| | A ネットなし(6m) | B ネットあり(4m) |
| 距離 A,Bのいずれかを選ぶ | <p>・バドミントンコートのダブルスのサイドラインの間の距離が6.1m。サイドラインを踏んでスタートする。 ・メジャーで6mの距離を測る。</p> | <p>・ショートサービス・ライン間の距離が3.96m。つま先がショートサービスラインを越えないようにしてスタート ・メジャーで4mの距離を測る。</p> |
| 4人で1組が基本。2人がラリーしている間に、他の2名がラリーの数(ラケットでシャトルを打った数)を数える。 | 6m離れたところからスタート。途中で、シャトルを打つために前に出たり、下がったりしても良いが、6mに戻るようにする。床に落ちたシャトルをすぐ拾い、6mの位置に戻って時間が終わるまで続ける。 | ネットを中央にして、4m離れたところからスタート。ネットの上を越えたラリーが有効。途中で、シャトルを打つために前に出たり、下がったりしても良いが、4mに戻るようにする。床に落ちたシャトルをすぐ拾い、4mの位置に戻って決められた時間まで続ける。 |
| 時間 | 1分 (立会人 (公認審判員) が計る) | |
| 数えるのは 制限時間内ならば、何回でもやり直しができる | ①時間内に二人でシャトルを打った総数 (●が数える) | |
| | ②シャトルを落とさずに打ち続けた数の最大 (●が数える) 5 | |

ラリーラリーをする前に（必ず確認しましょう）：

- ・①、②の数をだれが数えるか、最終確認します。
- ・ラリーしている間に、隣の人、隣のコートの人、数を数えている人とぶつからないように、人との間隔を十分開けましょう。
- ・フェアに行うことが最も重要なことです。

ラリーラリーをはじめる

- 1) 公認審判員などの立会人の「Go!」の掛け声でシャトルを打ち始めます。
- 2) 決められた数え方で、決められた時間内（1分間）に打ったラリーの数を数えます。

次の①、②の数を数えるので、次に行なう人が分担して数えます。

① 二人が1分間に打った総数（ラケットとシャトルの当たった数の合計）を記録とする。

② シャトルを床に落さず、ネットにかからず、身体に当らずに打ち続けた数を数える。制限時間内ならば、何回でも1からやり直しができます。最も大きな打ち続けた数を記録とします。

- 3) 立会人がフェアにできたと認めた場合にだけ、スマホ、PCなどでラリーラリー専用HPにアクセスし、自分の記録（①と②）を入力します。フェアにできなかつたら、もう一度チャレンジしてみよう。

専用HP：（ <https://go-badminton.jp> ）

- 4) 参加したみんなの記録が集計されて、スマホ・PCに表示されます。

記録の集計、集計結果がフィードバックされ、自分の記録とみんなで飛ばしたシャトルの距離などがわかります。



協会や連盟の担当者の方へ：ラリーラリーの運営方法

- 1) ラリー大会の概要を決め（いつ、どこで、だれが、どのようにして、を決める）、専用サイトに登録します。
この概要を決めることが重要です。中途半端にならないよう、充分時間を確保するようにしましょう。
例
いつ：高校生の県大会、全国大会の開始前イベント・・・
6月6日、5月1日～7日など
どこで：〇〇市立体育館、〇〇公園の野外
だれが：そこにいるだれでも参加できる、何人かの選ばれた人・・・
どのようにして：二人が離れる距離、立会人(公認審判員を標準とする)、実際に行う時間帯、HP上で記録の収集、集約の設定など
 - 2) ラリーラリーを行うことを告知し、参加者を募集します。
 - 3) ラリーラリーを実行する。
 - 4) ラリーラリーの記録の取り方、収集の仕方
ラリー終了後、スマホ、PCを用意し、専用HPからラリーの記録を入力します。
(今年度からCSV形式による一括登録もできるようになりました。操作手引は入力画面の下部に掲載しています)
HP上で記録の収集、集約された結果の公開、管理を行えるシステムを利用します（日本バドミントン協会が作成したものを利用します）。
アプリがリアルタイムで記録を集計、即座に集計をフィードバックする予定です。そのため、プロジェクターなどを用意して、会場で大きな画面をみんなで見ながら行くと、参加しているという臨場感があり、盛り上がります。
 - 5) 行った会場での記録を紹介しましょう。
- ◆詳細は専用HP <https://go-badminton.jp> をご覧ください。

C 独自プログラム

独自プログラムは、各都道府県バドミントン協会が、独自に内容を企画し、指定された専用 HP から本会に申請し、東京 2020 組織委員会の承認を経て実施します。独自プログラムの場合も、主催は本会、主管が各都道府県バドミントン協会になります。この他の団体と連携する場合には、オリンピックスポンサーへの配慮などが必要であるために、申請書の「実施体制」の欄に関係する団体をすべて記入してください。

独自で企画する応援プログラムは、下記の 8 つの分野のいずれかに該当するものである必要がありますので、企画を立てる場合にご注意ください。

<分野>



公益財団法人日本バドミントン協会

TOKYO2020 応援プログラムの実施について

TOKYO2020 応援プログラムを実施する場合には、別紙の関係書類にある情報が必要になります。事前に必要な内容の準備をお願いします

(1) 申請方法について：

①専用ホームページ (<https://go-badminton.jp>) から申請します。

紙ベースでの申請は受け付けていませんので、ご注意ください。

②申請の際には、別紙資料の太枠内の情報を入力していただく事になります。太枠以外の部分は、共通プログラム（シャトルアート、ラリーラリー）の場合は自動的に作成されます。独自プログラムの場合は、アクション（実施するイベントなど）の内容に応じて各団体で作成していただく事になります。

③収支計画書は、本会で独自に制作したものを計画書として提出します。

(2) 実施報告について：

専用ホームページ (<https://go-badminton.jp>) から提出します。



注意：

(1)応援プログラムは、その性格上日程、主管団体、内容が異なれば別のイベント（アクション）として実施することになります。そのため、実施するプログラムごとに、また日程が複数にわたる場合は、それぞれについて申請（実施計画書、収支計画書）をする必要があります。

(2)TOKYO2020 応援プログラムの公式マークなどの使用については、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会との取り決めがあります。そのため、各団体が自由に使用することはできませんので、ご注意下さい。

(3)不明な点などは本会 TOKYO2020 応援プログラム担当者 (ouen@badminton.or.jp)までご相談ください。

TOKYO2020 応援プログラム実施計画書

A シャトル・アート プログラム

| | | | |
|---------|---|----|--|
| 主催 | 公益財団法人 日本バドミントン協会 | 主管 | |
| 開催会場 | 名称（正式名称）： 住所： | | |
| 開催日 | （西暦） 年 月 日 ～ 年 月 日 | | |
| 目的 | バドミントンで使い古されたものを使ってアート作品を作り、その作品でオリンピック会場を飾ることを目指す。これにより誰もがオリンピックに参加しているという意識を持つことができ、さらに自然環境の保全意識を高めることができる。 | | |
| 概要 | 使い古されたシャトルやシャトルの筒、壊れたラケットなどを使い、個人やチームで作成した作品（アート作品、実用品）を会場に集める。集まった作品を多くの人が鑑賞できる様に展示するとともに、写真に撮って専用ホームページにアップし、シャトルアート・コンテストの登録作品とする。 | | |
| 担当者 | 氏 名： メール： 電話番号： | | |
| 実施体制 | 主催：（公財）日本バドミントン協会 主管：（ バドミントン協会） 会場での統括部署あるいは責任者：（ ） 会場設営責任者：4 名 シャトル・アート作品受付、写真撮影担当者： 4 名 実施報告：1 名 その他の役割： | | |
| 想定参加予定者 | （ ） 名 | | |

TOKYO2020 応援プログラム実施計画書

B ラリーラリー プログラム

| | | | |
|--------|--|----|--|
| 主催 | 公益財団法人 日本バドミントン協会 | 主管 | |
| 開催会場 | 名称（正式名称）： 住所： | | |
| 開催日 | （西暦） 年 月 日 ～ 年 月 日 | | |
| 目的 | バドミントンは誰かと長く打ち続けることで楽しさが生まれる。より多く打ち続けること、常に自己ベストを目指して、老若男女誰とでもラリーができ、つながっていくことができる。TOKYO2020 までにどれだけラリーが続くようになるか、どれだけの人とバドミントンで繋がる事が出来るかチャレンジする。 | | |
| 概要 | 事前に広く地域に告知し、会場に集まった人たちが、公認審判員の立会の元で、打ち合う二人の距離(6m)、打ち合う時間(1分)を決めて、どれだけ多く打ったか、落とさずにどれだけ打ち続けられたかを競う。記録をスマホなどで集計し、自己の記録の更新を目指すと共に、この会場でのチャンピオンを決める。 | | |
| 担当者 | 氏名： メール： 電話番号： | | |
| 実施体制 | 主催：（公財）日本バドミントン協会 主管：（バドミントン協会） 会場の統括部署あるいは責任者：（ ） 会場設営責任者：5名 立会人になる公認審判員：10名 実施報告：1名 その他の役割： | | |
| 想定参加人数 | （ ）名 | | |

TOKYO2020 応援プログラム実施計画書

*独自プログラムを実施する団体は、この計画書をメールに添付してお送りください。
専用ホームページからは提出できませんので、ご注意ください。

C 独自プログラム（すべて記入します）

| | |
|---------|---|
| プログラム名 | |
| 団体名 | |
| 開催会場 | 名称（正式名称）： 住所： |
| 開催日 | （西暦） 年 月 日 ～ 年 月 日 |
| 目的 | |
| 概要 | |
| 担当者 | 氏 名： メール： 電話番号： |
| 実施体制 | 主催：（公財）日本バドミントン協会 主管：（ バドミントン協会） 会場の統括部署あるいは責任者：（ ） 会場設営責任者：（ ） 名 実施報告：（ ） 名 その他の役割： |
| 想定参加予定者 | （ ） 名 |

TOKYO2020 応援プログラム収支計画書

(自動的に作成されますので、記入の必要はありません)

主催：公益財団法人日本バドミントン協会

主管団体：()

開催日：(西暦) 年 月 日 ~ 年 月 日

会場：()

A：シャトル・アート プログラム

収入

| No. | 項 目 | 金額(円) | 備 考 |
|-----|------|--------|-----------------|
| 1 | 自己資金 | 46,000 | (公財) 日本バドミントン協会 |
| | | | |
| | | | |
| | 合 計 | | |

支出

| No. | 項 目 | 金額(円) | 備 考 |
|-----|-----|--------|----------------------|
| 1 | 謝金 | 28,000 | 7,000 円×スタッフ 4 名 |
| 2 | 交通費 | 8,000 | 2,000 円×スタッフ 4 名 |
| 3 | 消耗品 | 10,000 | 写真記録用 SD カード、 文房具 |
| | | | |
| | | | |
| | 合 計 | 46,000 | |

項目が不足する場合は、必要なだけ行を追加して下さい。

TOKYO2020 応援プログラム収支計画書

(自動的に作成されますので、記入の必要はありません)

主催：公益財団法人日本バドミントン協会

主管団体：()

開催日：(西暦) 年 月 日 ~ 年 月 日

会場：()

B： ラリー！ラリー！ プログラム

収入

| No. | 項目 | 金額(円) | 備考 |
|-----|------|--------|----------------|
| 1 | 自己資金 | 70,000 | (公財)日本バドミントン協会 |
| | | | |
| | | | |
| | 合計 | | |

支出

| No. | 項目 | 金額(円) | 備考 |
|-----|-----|--------|--------------------|
| | 謝金 | 35,000 | 7,000円×スタッフ5名 |
| | 交通費 | 10,000 | 2,000円×スタッフ5名 |
| | 消耗品 | 10,000 | 写真記録用SDカード、 文房具 |
| | 賃借料 | 15,000 | プロジェクター、スクリーン |
| | | | |
| | | | |
| | 合計 | 70,000 | |

項目が不足する場合は、必要なだけ行を追加して下さい。

TOKYO2020 応援プログラム収支計画書

* 独自プログラムを実施する団体は、この計画書をメールに添付してお送りください。

送付先：ouen@badminton.or.jp

主催：公益財団法人日本バドミントン協会

主管団体：()

開催日：(西暦) 年 月 日 ~ 年 月 日

会場：()

C 独自プログラム

収入

| No. | 項目 | 金額(円) | 備考 |
|-----|------|-------|----------------|
| 1 | 自己資金 | | (公財)日本バドミントン協会 |
| | | | |
| | | | |
| | 合計 | | |

支出

| No. | 項目 | 金額(円) | 備考 |
|-----|----|-------|----|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | 合計 | | |

項目が不足する場合は、必要なだけ行を追加して下さい。

TOKYO2020 応援プログラム実施報告書

A：シャトル・アート B： ラリー！ラリー！ C 独自プログラム
 (該当するプログラムに○をつける)

| | |
|-----------------------|--|
| 団体名 | |
| 開催会場 | 名称（正式名称）： 住所： |
| 開催日 | (西暦) 年 月 日 ~ 年 月 日 |
| 取組概要 (取組んだ内容を具体的に) | |
| 成果 (参加人数などを具体的に) | |
| 記入者 | 氏 名： メール： 電話番号： |

添付が必要なもの：

開催時の様子が分かるような記録画像（横断幕やのぼりを背景にしたもの）を1点以上ホームページから提出して下さい。